

弓達 秀樹 議員



一問一答方式

- ①産科医・小児科医の確保
- ②今後の市政運営
- ③中心商店街の街灯
- ④小中学校
- ⑤青島の将来

産科医・小児科医の確保について

問 子供を安心して産み育てていく上で産科医療、小児科医療における医師の存在は不可欠である。将来の医師確保に向けての方針や対策はどのように考えているのか。

答 定期的な産科医、小児科医と圏域の医療体制の現状や充実策などの協議や相談はされているのか。

市内にある産科、小児科は、産科が2施設、小児科が5施設

で、開業医の先生方の懸命なご尽力により必要な医療を提供していただいているのが現状です。特に小児科医は、高齢化が著しく体制の維持が厳しくなっています。このため、市内における小児科診療所の新規開業を促進し、小児初期救急医療体制の確保を図るため、本年4月1日に大洲市小児科診療所新規開業促進事業補助金交付要綱を制定しました。今後、他地域で活躍されている小児科医が本市で新たな診療所を開設できるように誘致に努めていきたいと考えています。

また、産科医の平均年齢は60.5歳となっており、分娩件数は平成30年度には549件を取り扱っていましたが、10年後の分娩件数は約350件程度と推測されますので、いましばらくは現在の体制で必要な医療を提供できるのではないかと考えています。

今後の市政運営について

問

肱南公民館周辺整備基本構想案は、大洲郵便局の移転候補地の選定など今後も引き続き検討していくとあったが、その進捗は現在どの

程度にまで及んでいるのか。

答

現時点では構想の段階であり、大洲郵便局の移転が決定しているものではありませんが、その検討するものではありませんが、その検討素案として大洲郵便局と日本郵便株式会社四国支社に説明をさせていただいています。郵便局としては、地域における利便性の確保や集配拠点としての位置づけなど、事業活動の継続性について様々な検討課題もあるようですので、今後も引き続き郵便局への情報の提供と共有を図っていきます。

なお、肱南公民館の建て替えは、今後この基本構想をもとに、複合施設としての基本計画についてより具体的な検討を進めていきたいと考えています。その後、基本設計、地質調査、実施設計、改築工事と事業を進める流れになりますが、復興計画や財政状況を考慮しながらの事業展開となるものと考えています。

中心商店街の街灯について

問

新町、常磐町、殿町の中心商店街とふれあい南通りに設置された商店街筋を象徴する丸い街灯は、中心商店街を認識する象徴的な存在

である。平成28年9月議会で、老朽化した中心商店街の街灯について質問をしたところ、その必要性や方向性を見極めて、国、県の補助も含めて研究、検討していきたいとの答弁をいただいた。

あれからほぼ3年が経過し、さらに老朽化が進み、街灯が落下する事案が各所で起きているが、研究、検討した結果、何らかの対策を講じてもらえるのか。

答

市としても、中心市街地において、特に伊予大洲駅から肱南地区の観光施設に至る観光動線と重なる地域では、今後の観光振興を考慮の上でも、安全・安心な環境や美しい景観の維持にこれまで以上に配慮の必要な地域ですので、国の補助事業の導入を含め、具体的な検討に入りたいと思います。

なお、ふれあい南通りは、観光動線としての強化を目的に肱南・肱北地区都市再生整備計画事業の2期計画として照明施設の整備を図ることとしており、あわせて既存街灯の撤去を検討していきたいと思えます。